一般細菌培養	8102000
	担当部署
ﾊﾞｲｮｳ	微生物

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*8.一般細菌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		1.原則として、発病初期の抗菌薬療法開始前に採取する 2.抗菌薬投与中の場合は投与中止後 24 時間以上経過してから採取する。中止が困難な場合は、次回投与の直前で最も血中濃度の低いタイミングで採取する
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	原則として抗菌薬投与前に検体の採取を行う。すでに抗菌薬が投与されている場合は、抗菌薬濃度が低下している次回投与前に採取することが望ましい。 主な採取時、取り扱い注意事項 1．微量の検体は乾燥を防ぐため、極少量の滅菌生理食塩液に入れる 2．嫌気性菌を疑う場合や悪臭を放つ材料では嫌気ポーターに採取する 3．尿：中間尿、カテーテル尿を滅菌容器に採取する。 4．糞便：下痢や血便のみられる時期に糞便の性状をよく確認し粘血や膿汁を含む場合はその部分を採取する。 できる限り自然排便させたものを検査材料とするこ
検体採取の特別なタイミング	菌量が最も多いと思われる時期、具体的に発病初期の抗菌療法前に採取する。汚染しないように無菌的に採取する。

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	他材料	滅菌スピッツ	なし	***	なし
2	他材料	シードスワブ	変法アミューズ培地	***	なし
3	他材料	嫌気ポーター	インジケーター付寒天	***	なし
4	他材料	喀痰容器	なし	***	なし

5	便	採便管	なし	***	なし
6	全血	血液培養ボトル	レズン入り培養ボトル（好気・嫌気）	8～10	mL
7	全血	小児用血培ボトル	レズン入り培養ボトル（小児）	1～3	mL
8					

検体搬送条件	採取後速やかに搬送する 乾燥を防ぐ 搬送時の汚染や感染を防ぐ
検体受入不可基準	1）検査ラベルがない検体 2）乾燥した検体 3）指定容器以外で採取され提出された検体 4）保存・搬送中に容器が破損した検体
保管検体の保存期間	2 週間 但し、血液培養ボトルは 5 日間培養後、陰性となったボトル又は検査終了後廃棄する。

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	3～14 日（菌種および菌量によって 15 日以上の場合がある）
生物学的基準範囲	無菌的部位から採取した検体：培養陰性 常在菌が存在する部位から採取した検体：常在菌叢のみ検出
臨床判断値	該当なし

基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因		菌種や菌株での発育の違いや単一集落を得るための純培養のために、報告にかかる日数が変動する場合がある。
臨床的意義		検査材料から原因菌を培養・同定することによって、感染症の診断と治療に直接または補助的役割を果たす。 「臨床検査法提要　改訂第 35 版　2020 年」